

## 平成29年度「ともに生きる条例」について理解する研修会（扇山）

# 実施結果概要

以下のとおり扇山自治会で研修会を開催した。

### I 日時

平成29年10月6日（金）10:00～10:15

### II 場所

扇山公民館

### III 研修参加対象者

扇山自治会参加者約50人

### II 研修会の概要

#### 1 「ともに生きる条例について」（説明）（障害福祉課職員）

パンフレットにしたがってともに生きる条例の概要を説明した。

#### 2 「障がいのある人が地域で暮らすために」（障害福祉課職員）

地域で暮らす障がいのある人が増加していくことが想定されるが、見守り支援や緊急時の対応などについては、地域に担ってもらう必要があることについて説明した。また、地域の人に求める障がいのある人への配慮として次のことをお願いした。

- ・ 車いすを押す、高いところにあるものを取るなど必要なときのちょっとした手助け
- ・ 異変があった場合の病院等への連絡など
- ・ 大声を上げたり走ったりなどの行動があったとしても、障がいの特性によるものと理解したうえで対応する
- ・ 外見からはわかりにくい内部障がいなどの「障がい」もあることへの理解

#### 3 「アンケート調査」

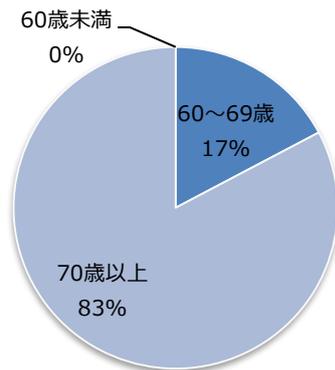
障がいのある人が地域で暮らすために必要なこと等についてアンケート調査を実施した（調査結果は別紙1）。

## 平成 29 年度「ともに生きる条例」について理解する研修会（扇山）

## アンケート集計結果

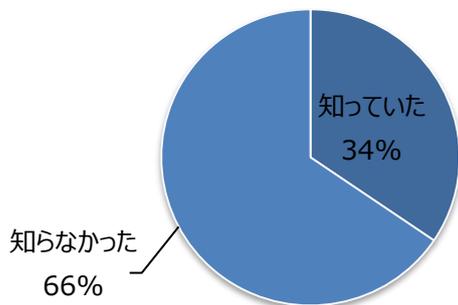
調査実施日 平成 29 年 10 月 6 日（金）、回収数 29

## I 年齢



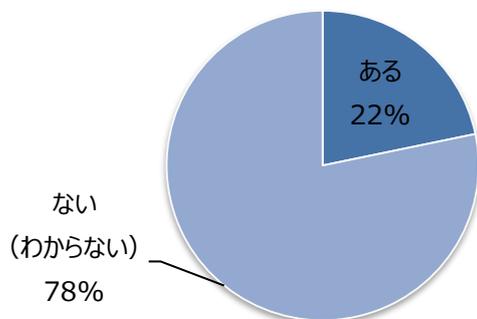
年齢区分	人数
60歳未満	0
60~69歳	5
70歳以上	24
合計	29

## II 「ともに生きる条例」をご存知でしたか？



	人数
知っていた	10
知らなかった	19
合計	29

## III お住まいの地域では、障がいのある人は地域行事への参加など地域での交流はありますか？



	人数
あると思う	5
あまりないと思う	18
合計	23

## 【内容】

- ・おまつり、公民館行事等

#### IV 障がいのある人が地域により溶け込んでいくためには、どのようなことが必要だと思いますか？

\* 複数回答可

	のべ人数	
「障がい」に対する理解	15	22%
日々のあいさつ、声かけ	20	29%
交流の場をつくる	12	17%
障がいのある人の地域行事等への参加	7	10%
障がいのある人の情報を地域内で共有	8	11%
障がいのある人からの情報発信（地域への要望等）	7	10%
その他	1	1%
合計	70	100%

【その他】

- ・障がい者の集まりに顔を出して声かけする

#### V 障がいのある人が暮らしやすいまちにするためには、どのような配慮が必要だと思いますか？

- ・障がい者への理解、あいさつ、声かけをする
- ・声かけ、コミュニケーションを図る
- ・障がいのある人がおられた時は声をかけたい
- ・思いやり
- ・思いやりをもって接する
- ・いつも別々の行事があるように思うので、いっしょに行動する、行事を共有するなどが大切ではないでしょうか
- ・なるべく一般の人の集まりに出席してもらう
- ・一般の人と同じように普通におつき合いする
- ・障がい者・健常者を区別しない政策を
- ・周囲の人たちが障がいに対する理解をし、助けることが必要かな
- ・バリアフリー等の整備（道路、施設）
- ・市が障がい者の各イベント参加の為にタクシー等の借上げを行い参加を促進する

#### VI その他自由意見

- ・高齢者の多い扇山であるのに道路の整備不良が多い
- ・高齢者も生活しやすい街づくりを
- ・息子が身体障がい者です
- ・知らない情報を聞き、タメになりました
- ・障がい者・年齢関係なく、両親・親戚等ない人の取扱いは？